

令和8年度 施政方針 教育行政運営方針 当初予算

誰一人取り残さない あたたかなまちの実現を目指して

市議会2月定例会において、田中 甲市長が施政方針、高木 秀人教育長が教育行政運営方針をそれぞれ述べました。2～5面では、各方針の概要や新年度の主な施策、予算を紹介します。
● 施政方針=□712-8591企画課、教育行政運営方針=□383-9224教育総務課、当初予算=□712-8595財政課

施政方針

施政方針は、新年度を迎えるにあたって、市長が向こう1年間の市政運営の方針や重要な施策を示したものです。



▲全文はこちら

市長に就任以来、市民の皆さんから託された重責を片時も忘れることなく、「市民目線」「現場主義」を一貫してまいりました。その中心にあったのは、市民の皆さんとの「対話」です。就任以来、計40回開催したタウンミーティングには、延べ1,145人の方々にご参加いただき、より市民生活に近い生の声を伺ってまいりました。
皆さんから受け取った「市川市をもっと良くしたい」という熱い想い、その一つひとつをカタチにし、ともに「より良い市川」をつくり上げることが、行政の役割と果たすべき責任です。本市の総人口は50万人に到達しようとしています。県内で4番目となる50万都市への仲間入りは、本市がそれだけ多くの方々「住みたい」「住み続けたい」と認められ、選ばれてきた

証です。このまちに関わってきた全ての方々が、まちの安全・安心、子育て環境、教育、高齢者や障がい者施策など、手を取り合って進めてきたまちづくりの成果にほかなりません。
この成果を更なる飛躍の契機として捉え、国や県との連携を一層密にしながら、今後も市民の皆さんとともに、持続可能なまちづくりを着実に進めていきたいと思います。
日ごろから市川市を愛してくださっている市民の皆さんへの感謝を決して忘れることはありません。もし、その中に、困難に直面している方がいらしたら、あるべき共生社会のあり方を模索しつつ、誰一人取り残さないあたたかなまち、市川市の実現を着実に進めてまいります。




▲田中 甲市長

施政方針の主な内容と事業



主な施策①

誰一人取り残さないまち

恒久平和の実現
●中学生を被爆地へ派遣し、被爆の実態への理解を深める平和学習を継続します。

▲平和記念公園(広島)などを見学

健康寿命日本一
●市民一人ひとりが心身共に健康で、介護や医療に頼ることなく、活力に満ちた生涯を送ることのできる「健康寿命日本一」の実現に向け、引き続き、「健康ポイント Aruco」の利用拡大や、健康講演会を通じて、みなさんの健康づくりを後押しします(8面参照)。
○健康寿命延伸事業 (940万円)

子育て支援
●保護者の就労の有無に関わらず、0歳6カ月から満3歳未満までの未就園児を保育園などに預けることができる「こども誰でも通園制度」を本格的に実施します。
●地域における子育て支援の拠点である「親子つどいの広場」は、遊び場の提供に加え、親子の交流や情報交換の場として重要な役割を果たしています。「びあばーく 妙典COCO」内の「妙典親子つどいの広場」は、これまで開所日が月～土曜日でしたが、6月からは日曜日・祝日も利用できます。
○親子つどいの広場事業 (3,819万円)

子どもの受験対策季節講習費支援事業 (3,265万円)
経済的課題を抱える世帯の受験生の学習塾の夏期・冬期講習などの費用を補助します。
○LED化の推進 (8億1,202万円)
公共施設にある照明設備のLED化を推進します。

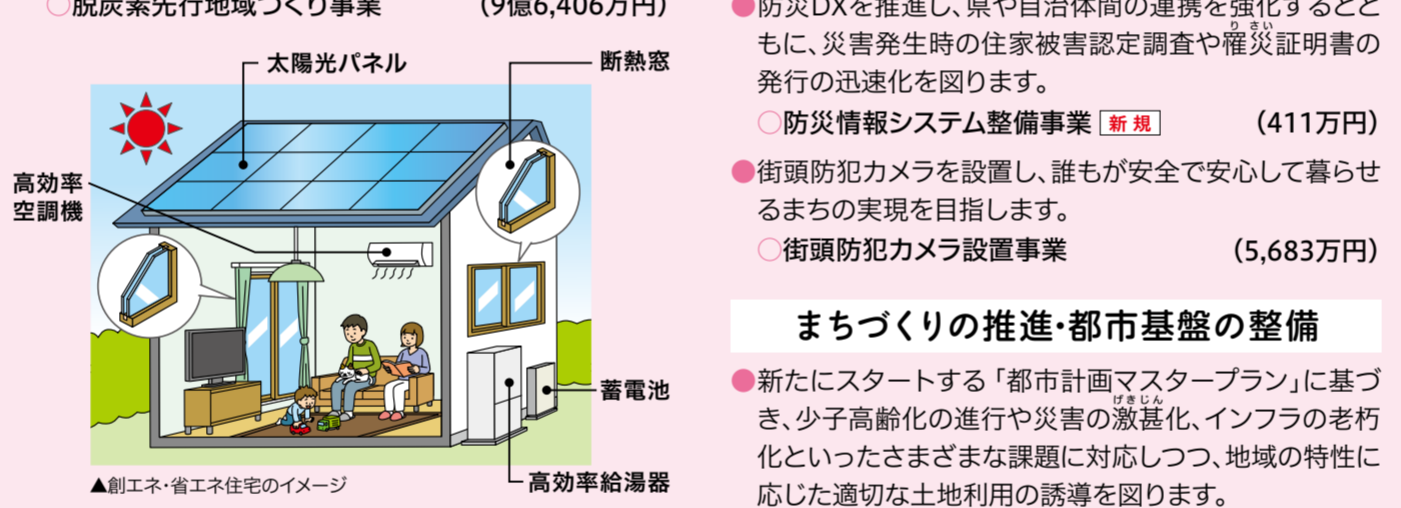
多文化共生
●さまざまな言語の方に伝わるよう工夫した、やさしい日本語で作成したチラシを配布します。日本で暮らす上での生活ルールや、マナーへの理解を深めていただけるよう努めます。

福祉の充実
●医療的なケアを必要とする方の受け入れが可能な事業所について、民間事業者と協力し、受け入れ体制の整備を進めます。
●75歳以上のゴールドシニアがいるエアコン未設置の世帯(住民税非課税世帯と均等割のみ課税世帯)に対して、エアコンの購入費用を最大8万円まで補助する「エアコンサポート75」を新たに開始します。

主な施策②

持続可能で安心・快適なまち

カーボンニュートラルの実現
●カーボンニュートラルの実現に向け、脱炭素先行地域である妙典地区において、太陽光発電設備の設置など、既存住宅の創エネ・省エネ推進に係る費用を補助します。また、環境に配慮した集合住宅である、「ZEHマンション」の新築に対して、1棟当たり最大1億円を補助します。
○脱炭素先行地域づくり事業 (9億6,406万円)



●市内全域を対象とし、省エネ性能が高い住宅に関する情報を積極的に公開します。
○LED化の推進 (8億1,202万円)
公共施設にある照明設備のLED化を推進します。

「環境先進都市いちかわ」の実現
●ごみの分別を徹底するため、プラスチック製容器包装類としてまとめて収集していたペットボトルの分別収集を4月から開始します。
○ペットボトル分別収集事業 (新規) (3億1,756万円)

自然環境の保全
●「保存樹木」の要件を緩和することで、本市の歴史ある街並みを彩るクロマツをはじめとした樹木の保存、保護に取り組みます。
●漁業協同組合や三番瀬の再生に取り組む環境団体と協力しながら、豊かな生態系を育む三番瀬の保全と再生に向けた取り組みを進めます。

動物愛護の推進
●地域の猫活動支援拠点「いちにゃんサポート」を中心に、地域猫の里親探しや動物愛護の情報発信などを行います。

主な施策③

魅力あふれる元気なまち

文化・芸術の振興
●市川駅前ミュージアムでは、若手アーティストに活動と発表の場を提供します。さらに、作品の創作過程を楽しむことができる参加型の企画を開催し、新しい感性に触れる機会を創出します。
○「市川の文化人展」等事業 (754万円)
●永井荷風文学賞を通じて、多くの方々に文学の魅力を感じていただくとともに、新たな才能の発掘につなげていきます。
○永井荷風文学賞運営事業 (1,075万円)

スポーツの振興
●本市と協定などを締結する各チームと連携し、公式戦への招待やスポーツ教室の開催などを通じて、スポーツを身近に感じられる機会を創出します。また、各チームが活躍できる足場を整えていきます。
●J:COM北市川スポーツパークでは、3月にオープンしたバスケットコートに続き、スケートボードパークの整備も進めていきます。

都市農業・水産業の支援
●農業の生産力の強化を支援するとともに、地産地消を通じて農業への理解を促進します。
●漁港施設の計画的な機能保全や護岸の更新を進めます。
○市川漁港整備事業 (3億6,900万円)
令和8年度は護岸の改修工事と漁港の機能保全のための設計を継続して行います。

ふるさと納税の強化
●新たな返礼品の拡充やPRを強化し、少しでも多くの市外の方に、寄付先として選ばれるよう努めます。
市民サービスの向上
●DXを推進し、市民のみなさんの利便性向上に努めます。
●近隣市と連携を図ることで、それぞれの市民のためになるサービスを、効果的かつ効率的に提供し、お互いの強みを生かしたまちを目指します。



教育行政運営方針

教育行政運営方針は、教育長が施政方針と同様に教育行政の方針を示したものです。



▲全文はこちら

教育施策の推進にあたり、学校と一体となって取り組むとともに、家庭や地域などさまざまな関係者との連携や協働を進めます。

また、総合教育会議を通じて、今まで以上に、市長と一層の協議・調整を図りながら、子どもたちの育ちや学びに責任を持ち、市民や若者による社会教育活動や文化財の保存・活用などを進めます。



▲高木 秀人教育長

重要な施策①

「中学校卒業まで」学びの連続性の全校展開

高校や社会につながる充実した人生の基盤づくり

- 「(仮称)言語探究科」の新設に向け、主体的・対話的で深い学びの実装に向けた準備を進めます。
- 市立学校全体で小中一貫教育を進めるとともに、学校運営協議会の体制整備を進めます。
- 幼稚園・保育園・認定こども園、小学校、中学校などの関係者がそれぞれ関係する学校運営協議会に参画することを推進します。

- 質の高い教育を提供するため、タブレット端末の更新や通信ネットワークの改善、普通教室・特別教室・避難所となる体育館のエアコン整備や宮田小学校の建て替え工事に着手します。

- 小学校建替事業 (23億5,300万円)
令和8年度は宮田小学校の建て替え工事を開始します。



▲宮田小学校建て替えイメージ図

重要な施策②

誰一人取り残さない学びの保障

多様性を包摂する学校教育の実現

- 特別な支援が必要な子どもたちへ教育的ニーズに応じた適切な指導・支援と環境の整備を行います。
- 外国籍児童・生徒などに、支障なく学校生活を送り、授業を理解する上で必要な日本語能力を身に付けられる日本語指導の充実を図ります。

- 不登校児童・生徒に対しては、「校内教育支援センター」の優れた取り組みを周知徹底します。

- みらいサポーター事業 (1億3,408万円)
- 行徳地区に「サポートルームふれんど市川」の分室を設置して市内2カ所で支援します。



▲日本語指導の取り組み

重要な施策③

世界につながる市川版英語教育

子どもたちが世界で活躍できる素地作り

- 「教育課程柔軟化サキドリ研究校」の指定を受けた小学校にALT(外国語指導助手)を配置し、小中一貫の英語活動・英語教育に取り組みます。

- 小学1年生～中学3年生の9年間で児童・生徒に身に付けてほしい力を明確に提示した、本市独自のCAN-DOリストを策定します。



▲ALTによる授業

重要な施策④

乳幼児期からはじまる読書環境の充実

言葉を学び、感性・表現力・創造力などを培う読書活動の充実

- 図書館司書が学校司書を支援することなどを通じ、図書館の持つ専門性を活かした学校図書館の支援を進めます。



重要な施策⑤

心も体も健康的な子どもを育む環境整備

豊かな心と健やかな体の育成

- 給食費無償化を継続して、食材の価格高騰にも対応し、給食の質と量を確保します。
- 学校給食室運営事業・学校給食費管理事業 (47億84万円)

- 児童の放課後活動の充実を図るため、放課後保育クラブと放課後こども教室の連携を検討します。

- 中学校の運動部活動・文化部活動の地域展開を段階的に推進します。

- 部活動地域展開推進事業(スポーツ・文化) (2,103万円)



▲野菜を型抜きし、食べやすくした給食

重要な施策⑥

人生を豊かにする生涯にわたる学びの基盤づくり

学びを通じた「人づくり・つながりづくり・地域づくり」の循環

- 公民館に学習スペースを設け、若年層を中心に社会教育への関心や参画を広げた、新しい地域づくりの振興を図ります。

- 下総国分寺跡と曾谷貝塚を地域で活かし、次世代に確実に伝えるため、史跡整備に向けた取り組みを進めます。

令和8年度 当初予算



▲詳細はこちら

令和8年度一般会計の当初予算額は、前年度比で7.2%増の2,022億円となり、特別会計、公営企業会計と合わせた全会計では、6.7%増の3,119億600万円となっています。

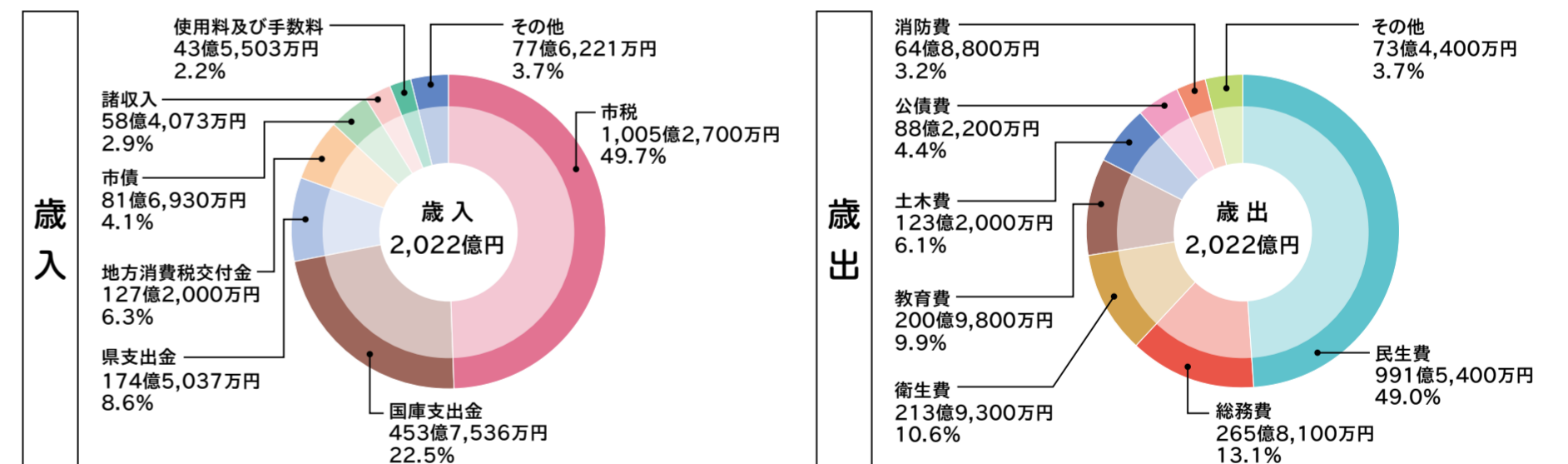
令和8年度当初予算では、4月に市長選挙を控えているため、新たな政策的判断が必要な事業の予算は見送りますが、生活に欠かせないサービスの提供やインフラの整備・維持管理の他、これまで政策的に進めてきた学校給食費の無償化など、市民生活の基盤を守る事業を着実に継続する予算を確保します。

その上で、物価高対策や生活環境の維持、災害や感染症への備えなど、見送ることができない緊急的に対処すべき足元の課題に対しては、新たな予算を確保します。

予算の規模

一般会計	2,022億円	(対前年度比7.2%増)
福祉や道路、教育など市の基本的な事業を行うために設けられた会計		
特別会計	839億3,300万円	(対前年度比3.9%増)
特定の収入をもって特定の事業の費用に充てるため設けられた会計		
●国民健康保険特別会計	387億2,000万円	
●介護保険特別会計	368億9,700万円	
●後期高齢者医療特別会計	83億1,600万円	
公営企業会計	257億7,300万円	(対前年度比12.8%増)
地方公共団体が経営する公益的な事業を行うために設けられた会計		
●下水道事業会計	257億7,300万円	
全会計	3,119億600万円	(対前年度比6.7%増)

一般会計における歳入・歳出予算の内訳



市民1人当たり予算額 405,576円
(対前年度比24,350円の増)
一般会計予算2,022億円を市の人口498,550人(令和7年12月末時点)で割って算出

教育費 40,313円 学校の教育や公民館・図書館の管理・運営など	土木費 24,712円 道路・河川・公園の管理や整備など	公債費 17,695円 借入金の返済	消防費 13,014円 消防・救急・救助活動や消防団の経費など	その他 14,731円 地域経済・観光の振興、議会の運営など
民生費 198,885円 高齢者・障がい者・子どもの福祉など	総務費 53,316円 文化・スポーツの振興や防災・防犯対策、情報化の推進など	衛生費 42,910円 医療、保健、環境、ごみ処理など		